



独立行政法人地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization : JCHO

ご自由に
お取りください

JCHO大阪病院 Osaka Hospital

広報誌 オープン・コム Open Com

2021 No.47

開放型病床を持つ開かれた病院として、
地域の先生方や住民の皆様とコミュニケーションを図り、
心かよう安心の医療を目指します。

特集

消化器がん



特集 消化器がん

◆JCHO 大阪病院 消化器内科は

- ・ 上部下部合わせて、年間 10,000 件を超える数多くの内視鏡治療を行っています。
- ・ 消化管出血などの緊急内視鏡にも積極的に対応しています。
- ・ 消化器各疾患において専門性の高い医療を提供しています。

■肝細胞がんの治療について

- ・ あきらめない治療をめざします。
- ・ 局所根治をめざす治療から全身化学療法まで行える体制を構築しています。

■薬物療法

肝細胞がんは国立がんセンターの 16 種類の臓器別の 5 年生存率の統計では 14 番目に位置し、まだまだ予後不良のがんですが、抗がん剤治療が、劇的に進化を遂げています。2009 年にソラフェニブが適応承認されて以来、長らくその他の治療薬が無い状況が続いて来ましたが、2017 年から 2020 年にかけて、一気に 5 種類の抗がん剤治療が可能となり、当院でも、昨年秋に保険認可された免疫チェックポイント阻害剤であるアテゾリズマブとベバシズマブ併用治療の導入患者が増加してきています。肝細胞がんの多くは肝硬変から発生します。肝硬変の主要な原因は C 型肝炎ウイルスですが、2015 年

頃から登場したインターフェロンフリーの経口薬治療により、ほとんどの症例で C 型肝炎ウイルスの排除が可能となりました。ウイルス性の肝がんが抑制されると同時に、肝炎の進行も停止することになります。そのため肝細胞がんが新規発生しても肝予備能（肝臓の体力）が温存された状態で見つかることが多くなり、抗がん剤治療の適応症例の増加のみならず、手術やラジオ波焼灼療法（RFA）のような従来の局所根治を目指す治療ができる方が増えてきています。難治性のがんですが、あきらめずにご紹介いただければ幸いです。

■局所療法

肝細胞がんの局所治療では、CT や MRI で見つかった病変と一致する病変部を的確に見つけて治療することがきわめて重要です。当院では最新の超音波装置を用いて、CT・MRI 画像と位置合わせをし病変を確認する V-navigation という

操作での確認を行っています。ほぼ全例に造影エコーとあわせて実施することにより的確な治療戦略を練って RFA を行っています。RFA においては、横隔膜直下病変に対する人工胸水下治療や消化管に隣接した肝下面病変に対する人工腹水下治療、造影超音波下治療等、部位的にハイリスクな部位の肝細胞がんの RFA も行っています。



巽 信之
消化器内科部長

経歴 1993 年大阪市立大学卒。大阪市立大学医学部附属病院研修後、大阪市立大学大学院にて学位取得。まちだ胃腸病院、大阪市立大学医学部附属病院、NTT 西日本大阪病院を経て、2016 年 4 月から現職。

医学博士、消化器病学会専門医、総合内科専門医・指導医、消化器内視鏡学会専門医・指導医、肝臓学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本ヘリコバクター学会認定医、日本病院総合診療医学会認定医
好きなもの スポーツ鑑賞（テニス、サッカー日本代表）



ラジオ波焼灼療法 (RFA)

■ キャンサーボード

各治療の専門医が集まり、がんに対する適切な治療法について話し合う会をキャンサーボードといます。当院では、消化器内科がラジオ波焼灼療法、消化器外科が外科手術、放射線科が血管治療（塞栓術および動注化学療法）、放射線治療科が定位放射線治療とさまざまな治療を提供できます。定期的に肝胆膵のキャンサーボードを開催し、最適な治療方針を決定しています。

■ 肝胆膵部門：

肝臓グループの紹介

- ・肝細胞がんに対するラジオ波焼灼療法 (RFA)、最新機器を用いた肝細胞がんの局所療法、最新の薬物療法
- ・胆膵がんによる閉塞性黄疸

(ステント留置術)、総胆管結石（結石除去術）、急性膵炎治療等を行っています。

- ・超音波での肝硬度測定（エラストグラフィ）は、近年増加しているメタボリック症候群から発生する非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と単純性脂肪肝との鑑別に有用な検査です。当院では最近保険診療が認められた5年以上前から行っています。
- ・胆膵疾患では、超音波内視鏡検査 (EUS) を数多く行っています (EUSについては、後述の P.5 医療コラム「膵臓がんになりやすい人って？」をご参照ください)。

(かかりつけ医の先生方へ)

地域の先生方とは病診連携の会を開催し、活発に交流さ

せていただいておりますが、緊急の依頼にも積極的に対応し、地域医療に貢献していく所存ですので、引き続きよろしくお願いたします。

【消化器内科概要】

- ・伊藤敏文 副院長ほか、12名のスタッフと2名のレジデントの総勢14名

■ 部門担当

■ 内視鏡センター

(山本克己センター長)

■ 炎症性腸疾患 (日山智史医長)

■ 肝胆膵部門 (巽信之部長)

■ 各部門紹介

■ 内視鏡センター

- ・胃がん、大腸がん等、上下部の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD：年間200件以上)
- ・内視鏡的粘膜切除術 (EMR)
- ・イレウス管留置ステント留置術等の内視鏡治療

■ 炎症性腸疾患 (IBD)

- ・潰瘍性大腸炎、クローン病治療
- ・クローン病の好発部位である小腸のカプセル内視鏡検査 (VCE) やダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) による専門的な治療

◆ JCHO 大阪病院 外科（消化器）は

- ・がん治療、特に低侵襲治療に力を入れています。
- ・24時間、365日、緊急手術が対応可能です。
- ・消化器外科分野の各専門医が、高度な医療を提供しています。

■ 低侵襲治療に対する取り組みについて

上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3部門とも、可能であればできる限り低侵襲な腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡手術とは全身麻酔のもと、小さな傷を数か所（多くは3～5か所程度）作り、二酸化炭素で腹部を膨らませ、腹腔鏡を見ながら手術をする方法です。

腹腔鏡で視野を拡大して手術をするので、従来の開腹手術と比較して、より繊細で緻密な手術が可能となり、患者さんへの負担も軽減されます。腹腔鏡も進歩して、現在では最新の3D腹腔鏡システムを導入し、より低侵襲な手術が可能となっています。腹腔鏡手術は難易度の高い手術ですが、手術の質をビデオ審査して資格を得る日本内視鏡外科学会技術認定医をスタッフ4人が取得しており、安心して手術を受けていただけます。

また早期の癌に対しては、消化器内科と連携し、内視鏡的粘膜切除術（EMR）などの内視鏡治療や、高度な内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）など



の治療を積極的に導入し、より低侵襲な治療を心掛けています。

■ 下部消化管部門の紹介

- ・特に大腸がん（腹腔鏡手術）、直腸がん（肛門温存手術）、局所進行直腸がん（集学的治療）を専門としています。
- ・大腸がん（結腸がん、直腸がん）治療を中心に、良性腫瘍、大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔）や腸閉塞（イレウス）に対する外科治療を行っています。
- ・痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍といった肛門疾患の手術、直腸脱に対する手術も行っています。



井出 義人
外科部長（下部消化管担当）

経歴 北海道出身。1997年 北海道大学卒。神戸市立中央市民病院、大阪大学大学院、吹田市立吹田市民病院、八尾市立病院を経て、2019年4月から現職。

医学博士、外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、大腸肛門病専門医・指導医、がん薬物療法専門医・指導医、内視鏡外科学会技術認定医（大腸）。専門は下部消化管外科、腹腔鏡手術、化学療法。大腸がんの集学的治療・腹腔鏡手術、直腸がんの肛門温存手術に精通。



■外科医の思い

早期がんから進行がんまで、どんな“がん”に対しても、患者さんに寄り添い、必要な治療を提供できるよう心がけています。がんと共に生きていく支援も、今後は重要になってきます。患者さんの価値観を重視し、心のこもったがん医療を提供していきたいと思っています。

■大腸がんに対する腹腔鏡手術

当院ではほぼすべての患者さんに腹腔鏡手術を行っています。

大腸がんの手術の基本は、がんがある部分を含む腸管の切除とリンパ節郭清です。

2020年は92名の患者さんに大腸がん切除手術を行いました。そのうち90名(98%)に腹腔鏡手術を行っています。

■進行大腸がんに対する集学的治療

周りの臓器を巻き込んでいる(浸潤している)場合など、そのままでは取り切れない可能性がある場合、薬物療法や放射線

治療を行ってから、手術を行う場合があります。当院は井出が抗がん剤治療の専門医資格である日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医を取得しており、薬物療法についても高度な専門的治療を行うことができます。また、放射線治療医も常勤しており、必要に応じ放射線治療も行い、より根治性の高い治療を目指しています。また、他院で肛門温存が難しいといわれた患者さんに対して、集学的治療を行うことにより肛門温存が可能であった例もあり、可能な限り患者さんの負担の軽減に努めています。

【外科概要】

- ・ 消化器外科、呼吸器外科
- ・ 西田俊朗 院長、畑中信良 副院長ほか、9名のスタッフ、2名のレジデントの総勢11名

■消化器外科部門別担当

- 上部消化管 (出村公一 部長、村上剛平 医長)
- 下部消化管 (井出義人 部長、大澤日出樹 医長)
- 肝胆膵 (森本修邦 部長、大橋朋史 医長)

メモ 集学的治療

主に、手術、薬物療法、放射線治療などを組み合わせて行う治療です。がんの治療法には、手術(外科治療)、薬物療法、放射線治療などがあります。治療法が進歩した現在においても単独の治療法では十分な効果を得られない場合があります。そこで、より高い治療効果を目指して、これらの治療法を組み合わせることを集学的治療といいます。その母体となるのががんサージカルボードです。

膵臓は直接観察が困難な臓器で、膵臓がんの早期発見は難しいとされています。各界の著名人も膵臓がんによってその命を奪われました。我が国における膵臓がん死亡数は国立がん研究センターの統計によると、2017年で34,224人（臓器別で第4位）となっており年々増加しています。どのような方が注意すべきなのか、今日は、膵臓がんのリスクファクター（危険因子）についてお話しします。

1) 家族歴

膵臓がんの家族がいる膵臓がん患者の割合は3～8.7%とされており、第一度近親者（親・兄弟姉妹・子）の膵臓がん発生リスクは、膵臓がん患者1人:4.5倍、2人:6.4倍、3人以上:32倍と高くなります。第一度近親者（親・兄弟姉妹・子）に2人以上の膵臓がん患者がいる場合は発生リスクが特に高く、家族性膵臓がん家系と定義されます。

2) 糖尿病

統計調査で、2型糖尿病患者における膵臓がん発生リスクは1.94倍と高率であり、特に、新規発症や急激な糖尿病の増悪時には、膵臓がんが発見されやすいことが報告されています。

3) 肥満

肥満の指標であるbody mass index (BMI) が5 kg/m²増加で1.10倍、ウエスト10 cm増加で1.11倍、膵臓がんの発生リスクが増加します。BMIで男性は35 kg/m²以上で1.49倍、女性で40 kg/m²以上で2.76倍発生リスクが増加します。

4) 慢性膵炎

慢性膵炎での膵臓がんの発生リスクは13.3倍と高率です。禁酒等により膵臓がんの発生リスクは有意に減少します。

5) 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)

IPMNという嚢胞（水の袋）を作るタイプの膵腫瘍も、膵臓がんの発生母地の一つとされており、経過観察となりやすい分枝型IPMNでも、膵臓がんの合併頻度は2～10%と報告されています。

6) 喫煙

日本人の喫煙による膵臓がんの発生リスクは1.68倍であり、喫煙本数や喫煙期間に相関して増加します。また、禁煙してからの期間が長いほど減少することが報告されています。

7) 飲酒

大量飲酒者（エタノール換算37.5 g/日以上）では、膵臓がんの発生リスク

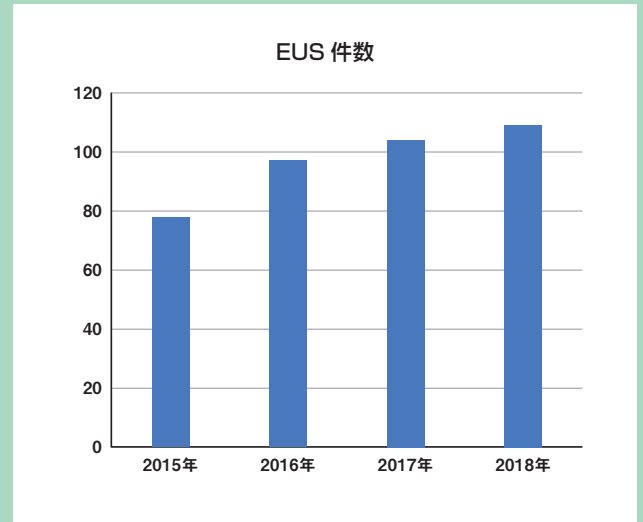


が1.22倍増加します。中等量以下では有意な増加は認められていません。

日常でできる予防は、禁煙、アルコールを控えること、太らないこととなりますが、上記に当てはまる方は、ハイリスクグループとして定期的に画像診断検査を受けることが少しでも膵臓がんの早期発見・早期治療につながる方法となります。

JCHO 大阪病院 消化器内科では、CT、MRIといった従来の診断装置に加え、**超音波内視鏡検査**（EUS：Endoscopic Ultrasonography）という胃カメラの先に超音波の端子を付けた装置を用いて、慢性膵炎や膵のう胞性疾患を指摘された多くの方に、精密検査を行っています。EUSは、膵臓がんを他の画像診断より、

高感度に検出できるとされており、確定診断のために行う、超音波内視鏡下穿刺（せんし）吸引生検にも使用しています。



（かかりつけ医の先生方へ）

当院のEUS症例数は年々増加しており、当院外科と連携し、診断・治療を行っておりますので、ご紹介いただければ幸いです。

当院の活動が下記メディアで紹介されました

出版物（雑誌）

タイトル	発行年月日	掲載ページ	内容
『週刊朝日』4月2日増大号	2021.4.2	P.107	「頼れるスポーツドクターのいる病院・クリニック」で、当院スポーツ医学科（島田幸造部長）【高度な技術で患者に寄り添い、機能回復とより良いパフォーマンスを目指す】が、掲載されました。

テレビ出演

テレビ局・番組名	放映日	内容
NHK ニュースほっと関西	2021.5.14（金）	当院のコロナ患者の受け入れの現状について西田俊朗院長がWeb出演されました。

JCHO 大阪病院の受診について

予約なしで受診

- ◆紹介状をお持ちでない場合も、受診いただくことができます。
ただし、選定療養費（5,500 円）がかかります。
- ◆ご都合の良い日に、紹介状を持参し、11:30 までに受付へお越しください。
*診療のスケジュールをご確認の上、ご来院ください。
*整形外科と神経精神科は完全予約制です。かかりつけ医にご相談ください。

かかりつけ医からの紹介予約

①かかりつけ医が、FAX もしくは電話で予約する。

- ・ FAX の場合は、「紹介予約申し込み書※」に記入して地域連携室へ送り、返送された「予約通知書」を受け取る。
- ・ 電話の場合は、「電話予約申し込み書 兼 予約通知書※」に記入し、専用の予約電話番号（申し込み書に記載）で予約をとる。

②予約通知書と紹介状を持参して予約日にご来院ください。

※「紹介予約申し込み書」「電話予約申し込み書 兼 予約通知書」がかかりつけ医にない場合、当院ホームページからもダウンロードできます。



- JR 東西線
「新福島駅」下車徒歩約 5 分
※出口 1 にはエレベーター、出口 2 にはエスカレーターがございます。
※当院に一番近い出口 3 には階段しかございません。
- 京阪電車「中之島駅」下車徒歩 5 分
- JR 環状線
「福島駅」下車徒歩 10 分
「野田駅」下車徒歩 15 分
- 阪神電車「福島駅」下車徒歩 10 分
- 地下鉄
千日前線「玉川駅」下車徒歩 10 分
- 市バス
大阪駅前 鶴町四丁目 [55] 方面 「堂島大橋北詰」下車 すぐ
大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「福島西通」下車 徒歩 5 分
大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「大阪福島税務署」下車 徒歩 5 分
大阪駅前 船津橋 [53] 方面 「堂島大橋」下車 徒歩 5 分
- タクシー
「大阪駅」より約 10 分

大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録事業者／「働きやすい病院」認定病院（第 1 号）／につけい子育て支援大賞受賞／女性のチャレンジ支援賞（内閣府）受賞



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院/大阪府がん診療拠点病院

JCHO (ジェイコー) 大阪病院 信頼に応える医療

独立行政法人地域医療機能推進機構 (旧 大阪厚生年金病院)

〒553-0003 大阪市福島区福島 4-2-78

TEL (06)6441-5451 (代表) FAX (06)6445-8900

<https://osaka.jcho.go.jp/> この広報誌に対するご意見・ご要望は、当院広報委員会宛まで



古くより四つ葉のクローバーは「見つけた人には幸運が訪れる」という言い伝えがあります。当院は患者さんや地域の皆様が幸せになるお手伝いができるよう四つ葉のクローバーの形をモチーフにしております。